

平成 19 年度第 1 回 ExTEND2005 リスクコミュニケーション推進検討部会 議事要旨

日時：平成 19 年 10 月 1 日（月曜日） 14：00～16：00

場所：合同庁舎 5 号館共用第 9 会議室（18 階国会議事堂側 1808 号室）

主席委員：北野大（座長）、青山好延、有田芳子、内山巖雄、小黒一三、吉川肇子、
間正理恵、村田幸雄、脇森裕夫

事務局：木村環境安全課長他

議題：

- 1．国際シンポジウムについて
- 2．身近な野生生物の観察事業について
- 3．化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて
- 4．その他

議事要旨

以下の内容について、資料に沿って事務局より説明・報告を行った後、質疑応答を行った。

- (1) 前回の検討会（平成 18 年度第 1 回リスクコミュニケーション推進検討会）及び親検討会（平成 18 年度第 2 回 ExTEND2005 化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会）について報告を行った。
- (2) 第 9 回国際シンポジウム（釧路）の報告の後、第 10 回国際シンポジウムの計画について報告を行った。
 - ・今年のシンポジウムのパネル展示は、一般の N G O の展示も受け入れるのか。
（環境省）今年度は、スペースが少し狭いということもあるが、できるだけ前向きに検討したい。
 - ・日曜日の開催で一般向けということだが、どのぐらいの層を対象にしているのか。
（環境省）まだ大きな枠組みのところまで考えており、なるべく一般の方でも、イメージがわくようなものを考えていきたい。
 - ・日本の取組がないのはどうか。
（環境省）基調講演で世界の取組を、次のパネルディスカッションの冒頭で日本の取組を考えている。
 - ・10 年の間に、何が分かっていて、何がまだ分からないのかということ、はっきり

分かるようにしていただきたい。

(環境省) そういうことを心掛けたい。

- ・今回は、技術的な進歩等について中心にやっていくというこの理解でよいか。

(環境省) 10年一区切りということで、何がどの程度まで分かったのか、それを前提に、現在考えているところを今回の重点に置きたいと思っている。その中にリスキミ等についても入ってくるプログラムを想定している。

(3) 平成19年度身近な野生生物の観察事業について報告を行った。

- ・この観察事業は、いつまで予定しているのか。

(環境省) 事業の見直しは年度ごとに行っており、いつまでということは予定していない。

- ・これは今後の提案であるが、2010年に生物多様性条約締約国会議が名古屋で開かれる。それまでに、たとえば2005年から始まって、2009年まで5回の観察事業の成果をそういう場で日本の取組として発信してはどうか。
- ・中国の子どもたちが、日本の子どもたちと一緒に観察するといった交流もひとつの提案としたい。

(4) 18年度のホームページの運用の実績、19年度直近までの更新の報告、及びホームページのリニューアル案について報告を行った。

- ・ホームページのアクセス状況やアンケートなどの結果を見ていると、10代のアクセスが多いように推測されるので、もう少し中学・高校生用や、小学校高学年用にコンテンツを準備してはどうか。

(座長) 入門編のところ、その辺のターゲットを考えながら記述いただき、この野生生物の観察事業の活動も載せてはどうか。

- ・来年度以降、いわゆる専門的に科学的な事実を重視したコンテンツと、子どもが分かりやすいということを重視したホームページという2本立てで考えてみてはどうか。
- ・国際的取組は準備中のままだが、今後は入ってくるのか。
(環境省) 原稿を用意しているところで、EPAやEUの取組を掲載したい。
- ・ホームページのリニューアルの公開時期はいつごろか。
(環境省) 次回、親検討会に諮ったのちに公開したい。
- ・国際シンポジウムの情報を、決まった段階で随時更新したり、英語の情報を載せていったりすると、人に声を掛けやすいので、ご配慮いただきたい。
- ・コラム・エッセーについては、「多くの方々のご意見をお待ちしております」と掲げてみてはどうか。

以上